

彗星だより

1927a 彗星 この彗星発見者のブラスマイト (Blathway) 氏は昨年1月16日に新しい彗星を発見した人で、南半球ではこの節は夏の盛りだから、暑い折に折角彗星探しに勉強して後ば涼しい顔をしてゐるのも甚だ工合がよいことである。大略の位置は(本會アレチン102號参照) 日附(萬國時) 赤經 赤緯 光級

年	月	日	h	m	s	光級
1927	4	19	2	34.1	-27°42'	10.2
	5	5	2	50.8	-22 7	10.7
		21	3	3.9	-18 11	11.1
	6	6	3	14.1	-15 27	11.4
		22	3	21.3	-13 40	11.6

1927b 彗星 これも亦可なり南方に出現したものである。しかも尙ほ當時は南の方へ動いてゐたものであつたから、発見の電報が來ず 國際天文同盟の回報 135 號が到着して初めて知れた譯である。ケーブからの知らせによる彗星軌道の要素は

T 1926 12月 30.54 U. T.
 ω 224° 45'
 Ω 108 42 } 1927.0
 i 83 40
 q 0.7534

さいふ譯で近日點は既に昨年通過して終つた筈で、又地球からも段々遠ざかつていつてゐるのである。しかし発見の時には何しろ八等級ださいふから素敵なものである。

1927c ポンウインネク彗星 この彗星が本年6月25日頃にわが地球に最も近づき、しかも地球太陽間の距離の約20分の一即ち七百萬キロメートル位にまで接近するさいふこまはマーフキールド氏が計算した軌道要素から推算しうる譯で(本會アレチン第103號、天文年鑑参照) 従つて一般に非常に期待を以て待ち受けられたのであるが、早くも3月3日ヤーキース天文台のバンピースブルク教授が見付けも見付けたり光級16等さいふのを発見したのである。その位置(1927.0)は観測時刻3月8.4302萬國時對して

赤經 = 14 12 20.4^{h m s} 赤緯 = +25° 45' 24''

であつた。

グリニツチのクロンメルン氏はこの觀測とマーフキールド氏の計算とを照らし合はせて次の様な軌道要素を求めてゐる。

T 1927年 6月 21.日 1564 U. T

ω 170° 22' 50.0''
 Ω 98 10 0.0 } 1927.0
 i 18 57 0.0
 q 43 16 54.3
 $\log \alpha$ 0.519242
 $\log q$ 0.016840
 周期 6.00983 年

それで6月27日に地球に最近となり、やがて六百萬キロメートル位の間近かに接近するさいふ譯であるが、まだまだ當分の間は大きな口径の望遠鏡でなくては觀測は六ケしいであらう。五月になれば相當の望遠鏡ならば容易に認めるこゝが出る様になるだらうが、最接近の時と雖も肉眼で見える望みはないらしい。前號の挿繪に少しく説明を加へるこゝの彗星の軌道は近日點附近で黃道面を北から南へ通過してゐる。又地球はこの彗星軌道の内側を運行してゐるこゝであるから、彗星の近日點附近で兩者の軌道が舷々相摩するさいふこゝが知られるであらう。それで上の二つの事實からこの彗星が近日點を通過する頃には餘程地球の軌道へ近づきさいふこゝが了解せられるに相違ない。こゝで本年はその上に地球が丁度その問題の地點にゐる頃に彗星が近日點へ歸つて來るさいふ三拍子揃つた事實によつて破格的接近さいふこゝが起るのである。

1927d 彗星 ポン・ウインネク彗星の発見は既に3月3日であつたのだから、彗星の名前はこのウインネク彗星に與へるべきもので、従つてステアンスの発見した彗星は1927d 彗星と名るのである。

尙ほ本誌前號に報せられた発見當時の位置は赤經 = 15 16 6^{h m s} 赤緯 = -7° 21' 43'' である。